

## 修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院 電気通信学研究科 システム工学専攻 博士前期課程		
氏 名	山川 卓	学籍番号	0735035
論文題 目	品質・安全性確保へ向けた管理要因着眼点とその組織要因の検討		
要 旨			
<p>近年、様々な産業分野において、ヒューマンエラー（人為的ミス）が引き金となった事故がしばしば発生している。それらの事故に直接関わる人間のミスの多くは表層的な原因であり、その背後には管理要因・組織要因といった根本原因が存在する場合が少なくない。大きな事故を未然に防止するためには、ヒューマンエラーに対する対策だけでは不十分であり、組織における管理の面からの対策が不可欠である。</p> <p>組織要因に対する対策を導き出すにあたり、従来研究[2]では、組織の管理体制の現状を知るところを第一段階とし、企業に対してアンケートを実施した。このアンケートの質問事項は、従来研究[1]よりPDCAの視点から抽出された管理要因着眼点を基に、安全性と品質の向上に重要とされる 56 項目を抜き出したものである。本研究では、組織に活用するためのより有用なアンケートへの改訂を行うと共に、アンケート分析結果から組織の品質安全性確保の活動への指針を見出し、今後の事故の未然防止に役立てることを目的とする。</p> <p>本研究では、以下の 3 点を大きな目的とし、A 社及びメーカ 3 社に対してアンケートを実施、分析を行った。</p> <p>(1)管理要因着眼点 56 項目の妥当性を検証する</p> <p>(2)アンケートによって組織の現状を把握し、今後の品質・安全性活動をする上での課題を見出す</p> <p>(3)インシデント情報を基に、品質安全性確保の活動への管理要因着眼点の重点事項を提案</p> <p>(1)に対しては、A 社のアンケート結果の重要度の点数から検証することとする。重要度全体の平均点は若干ではあるが、19 年度より上昇し、5 点または 6 点をつけた回答者の割合も大きくなっていった。よって、19 年度と同様、アンケート改訂後も 56 項目全てが管理要因着眼点として「重要である」という評価が得られたと考えられる。また、メーカ 3 社に対して行ったアンケート調査結果(改訂前)においても、9 割以上の回答が 4 点以上となっており、56 項目がより幅の広い組織で「重要である」という評価が得られたと考える。</p> <p>(2)に対しては、アンケートによって調査した重要度、充実度、差（重要度－充実度）の点数を分析することにより、管理要因着眼点 56 項目に対する意識の度合いを定量的に評価し、各企業の弱い部分や強い部分を示すことができた。前年度に引き続きアンケートを実施した事により、時系列での比較も行い、より多面的な分析をすることができた。実際に、20 年度の結果は 19 年度よりも向上しており、本アンケート調査を継続的に実施することが、組織の改善活動を行うにあたって有効であると考えられる。</p> <p>(3)に対しては、アンケート結果とインシデント情報を基に分析を行う事により、前年度の分析結果を管理要因・組織要因に反映させた 20 年度は基準化リスクが低減している。また分析の結果から改善点を提言することで今後の管理要因・組織要因への指針を示すことができた。</p>			